

NEWS GOPE

インターネット・ニュースの見方

eye 1

デスクトップを制するのは誰か？ 期待されるプッシュメディア対応の日本語コンテンツ

最近、インターネット関連の話題に最も多く登場した「プッシュ」というキーワード。ようやくデスクトップに日本語のコンテンツが流れ始めそうな気配がしてきた。はたして、どのチャンネルが日本で多くのシェアを獲得するのか。各コンテンツプロバイダーはどのメディアに参加しようとしているのか。そして、ユーザーはこのメディアを本当に活用し始めるのか。これらをまとめて検証してみた。

編集部：倉園佳三

日本語版プッシュメディアの登場

海外で大ヒットした映画を半年遅れで日本で観るときに、「なんでこの情報化時代に世界同時上映ができないのか」という疑問を感じる。今話題のプッシュ型メディアも「ようやく」日本語コンテンツの準備が始まったようだ。海外との時差が1か月以内というソフトウェアのローカライズに比べて、コンテンツの日本語化にはもう少し複雑な事情がありそうだ。

現時点で、日本のコンテンツプロバイダーに参加を求めているおもなプッシュ型メディアとしては次の4つが挙げられる。マイクロソフト株式会社のインターネットエクスプローラ(IE)4.0に含まれる「チャンネル」、日本ネットスケープ・コミュニケーションズ株式会社の「ネットキャスター」と「インボックスダイレクト」、ポイントキャスト株式会社の「ポイントキャスト」である。8月10日現在、インボックスダイレクト以外のクライ

アントソフトはすべてベータ版となっている。おそらく、日本語コンテンツが出そろったタイミングに合わせて正式版が登場することになるだろう。

コンテンツプロバイダー最大の関心は「どのクライアントソフトが最も普及するのか、どのメディアが最も利益を生むか」という点だろう。これらの優劣がはっきり見えてくるまでは、どこにコンテンツを提供するかを判断しかねるというのが現状ではないだろうか。

普及は確実なIE 4.0のチャンネル

普及という点では、マイクロソフトIE 4.0のチャンネルが圧倒的に有利である。正式版の発表と同時に、ウィンドウズ95のプレインストールマシンには標準でIE 4.0が搭載される。各PCメーカーは、当然、自社のマシンのチャンネルに何らかのコンテンツを用意してくるはずだ。加えてマイクロソフト社は、先日のアップル社との提携によりマッキント

ッシュというプラットフォームも押さえた。事実上、日本で発売されるPCにはすべてチャンネルがバンドルされることになる。右の対応表でも分かるとおり、すでに11社のコンテンツプロバイダーが名乗りをあげている。これでデスクトップに表示される「チャンネルバー」の指定席はすべて埋まったことになる。

また、チャンネルを作成するためのツールとして「フロントページ98」のベータ版が早々と姿を現した。以前から問題になっていた「CDF(Channel Definition Format:8月号『インターネット最新テクノロジー』参照)」の作成もこれを使えば驚くほど簡単にできてしまう。さらに、演出としての「ダイナミックHTML」もWYSIWYG環境でできる。

クライアントの普及とチャンネルコンテンツの作成環境はすでに約束された。「誰にでも配信できる、それもあらゆるユーザーに」という点では、圧倒的に他をリードしている。

ネットスケープ社のターゲット

不利が予想されるネットキャスターだが、どうもマイクロソフト社のチャンネルとは別のターゲットを狙っているようである。ネットスケープ社のプロダクトマネージャーであるコーレイ・ブリッジス氏によれば、今後、ネットキャスターで使用できるウェブトップインターフェイスのサンプルが数多く発表さ

れるとのこと。いくつかのデモを実際に見たが、業務用のアプリケーションと限られたソフトウェアのアイコンが整然と並び「カスタマイズされたデスクトップ」といった感じのものだった。IE 4.0のチャンネルが一般のPCユーザーをターゲットにしているのに対して、こちらは明らかにイントラネット向けと言える。日本のネットスケープ製品代理店も、コミュニケーターとのセットで、それぞれの企業向けの独自インターフェイスとしてネットキャスターをバンドルすることになるだろう。より専門的な企業向けのコンテンツプロバイダーがこれに参入することが予想される。

もう1つのインボックスダイレクトに関してはどうだろう。電子メールでの情報配信サービスは、株式会社インプレスの「インターネットウォッチ」をはじめとして日本でも定着しつつある。ここでの売り物は、テキストだけでなく画像も含めたHTMLメールが配信できるということだ。この分野に競合他社はなく、英語版での実績からすれば十分に成功するチャンスはあるはずだ。いずれにしても、ここにどれだけのコンテンツプロバイダーが参入するかは、同社のメールソフトであるメッセージャーの成功の鍵を握る大きなポイントとなるはずだ。

実績のポイントキャスト

ブッシュ型メディアとしてのキャリアと実績を考えると、ポイントキャストの信頼性は高い。コンテンツプロバイダーと金銭的な契約を結び、コンテンツの制作から配信まで管理、保証するというシステムは他の3つのメディアにはないものだ。IE 4.0のチャンネルは、これに比べると「野外に誰でも自由に参加できるステージを作ったのでどんどん出演してくれ」といったものに近い。ここでは、インフラやコンテンツ制作、情報更新のタイミングなどの管理はすべてコンテンツプロバイダー側が自ら行わなくてはならない。実際、IE 4.0 PR2のチャンネルには回線の混雑のためにうまく表示されないというコンテンツがいくつか存在する。この意味で、ブッシュ型メディアを本格的なビジネスチャンスと考え

ているコンテンツプロバイダーはポイントキャストに大きな魅力を感じるはずだ。ただし、日本でどの程度のユーザーがこのクライアントを使用することになるかは未知数である。実際の普及を待ってから参加するという企業も多い。なお、現時点でいくつかのコンテンツプロバイダーの参入が決まりつつあるが、具体的な発表はサービス開始と同時にということだ。さすがにこのあたりのガードは堅い。

「ニュース」というキーワード

ブッシュ型メディアの普及を考えるうえで、最も重要なキーワードは「ニュース」である。

どれだけのユーザーがブッシュクライアントに表示されるリアルタイムのニュースに関心を持つか。ダイアルアップユーザーが自分の好きな時間にニュースを見るために「オフラインリーディング」という機能をフルに活用するか。これらの、ある種の「習慣」とも言える新しいニュースの購読方法が日本で定着するかどうか大きなポイントとなる。このためには、インターネットでしか見られないニュースがどれだけあるか、ほかのメディアよりもいかに早く情報を伝えられるか、テレビやラジオ、新聞といったメディアでは不可能なパーソナライズ化されたニュースの配信ができるか、これらの課題がコンテンツプロバイダーに与えられることになるだろう。そして、これらのニーズがより満たされるクライアントソフトが最も普及するはずである。

コンテンツプロバイダー対応状況

IE 4.0 アクティブチャンネル

コンテンツプロバイダー名	対応状況
朝日新聞社	準備中。本稼働時期未定
朝日ウェザーニュース	本稼働時期未定
朝日エヌ・ティ・ティ・アド (Internet TV Guide)	7月22日よりサービス開始
ソフトバンク朝日	本稼働時期未定
日本経済新聞社	準備中。9月初めに本稼働開始予定
朝日経BP	本稼働時期未定
ポイントキャスト朝日	年内本稼働予定
マイクロソフト ネットワーク	試験運用中。本稼働はIE 4.0製品版発売以降
毎日新聞社	すでにサービスを開始
読売新聞社	本稼働時期未定
朝日リクルート	すでにサービスを開始、さらに内容を充実させる予定

ネットスケープネットキャスター

コンテンツプロバイダー	対応状況
朝日新聞社	準備中。本稼働時期未定
東芝情報システム朝日	準備中。10月本稼働予定

ネットスケープインボックスダイレクト

コンテンツプロバイダー	対応状況
朝日インプレス	準備中。第3四半期中に本稼働予定
毎日新聞社	コンテンツ作成済み。本稼働時期未定

ポイントキャストネットワーク

すでに数社のコンテンツプロバイダーが参加。サービス開始と同時に発表の予定

コミュニケーター 4.0 日本語版発売、コンパスサーバー 3.0 発表 クライアント + サーバーに見る ネットスケープ社の戦略

ネットスケープコミュニケーターの日本での発売が始まったと同時に、マイクロソフト社は
大攻勢に打って出た。アップル社との提携、日本でのチャンネルコンテンツプロバイダー
11社の発表。苦戦が予想されるネットスケープ社の戦略とは何か。米国関係者からのコメ
ントをもとに、今後を占ってみよう。

編集部：倉園佳三



米国ネットスケープコミュニケーションズ
社のボブ・リスボン副社長

コミュニケーター 4.0 1 日本語版の 発売開始

7月19日、ネットスケープコミュニケーター
-4.01 日本語版が発売された。対するマイ
クロソフト社は「WWW ブラウザー戦争を今
年中に終結させる」と強気の姿勢を見せ、8
月6日にはこの言葉を裏付けるかのようにア
ップル社との提携を発表した。これまでネッ
トスケープ社が圧倒的シェアを獲得しているマ
ッキントッシュというプラットフォームにIE
が標準でバンドルされる。新バージョンが発
売されたばかりのネットスケープ社にとって、
これは相当な痛手となることが予想される。

ボブ・リスボン氏が語る 3 つの キーワード

7月16日、東京の椿山荘で行われた記者
発表会において、ネットスケープ社副社長ボ
ブ・リスボン氏はコミュニケーターについ
ていくつかの重要なキーワードを発表した。

- ①コミュニケーターは「人と情報を結ぶ」だ
けではなく「人と人とを結ぶ」ものだ。
- ②今、世界で最も価値ある不動産は「デス
クトップ」である。
- ③ネットスケープ社はユーザーに「オープン
スタンダード」を保証する。

これらのキーワードは、今後のネットスケ
ープ社の戦略を知るうえでどんな意味を持つ
のか。リスボン氏にその真意を聞いた。

①「人と人とを結ぶ」

リスボン：これまでのWWW ブラウザーは
「人と情報を結ぶ」ためのものでした。コミ
ュケーターには、それだけではなく、まさ
に「人と人とを結ぶ」ためのコンポーネントが
多く盛り込まれています。電子メールソフト
である「メッセンジャー」、コラボレーション
のための「コラボラ」、電子会議のための
「コンファレンス」などです。最も重要な
は、これらがすべて人と人とをつなぐために
用意されたということです。

②「デスクトップ」

リスボン：デスクトップの市場ではマイク
ロソフト社と競合しようとか競争しようとい
うつもりはありません。ネットスケープ社の
戦略は、できるだけ多くの企業がネットキャ
スターを使った独自のウェブトップを開発で
きるようにしていくということです。そして、
その結果、それらの企業がこのウェブトップ
によって多くの顧客を獲得できるようにする
ことが重要だと考えます。

③「オープンスタンダード」

リスボン：ネットスケープ社はフルフィー
チャーと標準の両方を提供していけると思
います。重要なのは、スタンダード自体がど
のように進化していくかということです。スタ
ンダードには2つの意味があります。1つは公
的機関が決めている標準で、これにはもちろ
んコミットしていきます。ナビゲーター4.0は
W3Cの提唱するHTML 3.2をフルサポート

しています。加えて、こうした公的機関に対
して、新しい提案をしていくということがあ
ります。たとえば、HTMLのドキュメントオ
ブジェクトモデル「DOM」に関して将来的
な標準を目指して、関係機関に仕様を提
案しています。つまり、一方ですでに標準と
なっているものに対応していきながら、他方
では新しいバージョンを提案する。ネットス
ケープ社はこのどちらに対してもコミットし
ていきます。

そしてネットスケープ社の戦略が 見えた

3つのキーワードとリスボン氏の回答を
合わせて考えると、ネットスケープ社の戦略
は次のようになる。

コミュニケーターの名前が表すとおり、こ
のバージョンの目指すものは「コミュニケー
ションツールとしての最高峰」である。マイ
クロソフト社のIE 4.0は、これまでどおり
WWW ブラウザーの機能を充実させている。
「情報にいかにかスムーズにたどり着けるか」こ
れが最大の狙いだ。これに対して、「人と人
とを結ぶ」という言葉が意味するものは、重
要なのはWWW ブラウザー戦争ではなく、電
子メールやコラボレーションといったコミュ
ニケーションの場でのアドバンテージをとる
ことだ。加えて、ネットキャスターによるウ
ェブトップをイントラネットにおけるインタ
ーフェイスとして、また企業から顧客へのア
プローチの手段として普及させる。同時に、
これらはフルフィーチャーの「オープンスタ

ンダード」であり、同社が提唱する「クロスウェア（どんなプラットフォームでも動作するウェブベースのアプリケーション）」をサポートするという点をアピールする。

そして、これらの戦略をより現実的なものにするためには、クライアント以上に同社のサーバー群である「スイートスポット」の存在が大きな鍵となる。

情報のパーソナライズと知識の管理

コミュニケーターの発売に合わせるかのように、スイートスポットも動き始めている。新しく発表された「コンパスサーバー3.0」はただ単に情報を配信するだけでなく、新しい情報のあり方を提案しようというものだ。これはマイクロソフト社が発表した「サイトサーバー」と競合するものだ。7月29日、日本でのプロモーションのために来日したスイートスポットのプロダクトマネージャー デビッド・バン氏にコンパスサーバーとは何かを聞いた。

バン：コンパスサーバーの役割は、ネットワークにある特定の情報を見つけて、これを管理することです。検索や個人情報のプロフィールをサポートします。自分に関心のある情報を定義しておくと、これに合わせて最新のコンテンツが自動的に配信されるといったシステムを提供します。この配信には複数の方法があり、ネットキャスターのチャンネルを通して情報をデスクトップに持ってきたり、インボックスダイレクトの形式でユーザーにHTMLメールを配信したりできます。コンパスサーバーには、もう1つ「ノーレッジマネジメント（知識の管理）」という重要な概念があり、このために「ソーシャルフィルタリング」という機能が用意されています。たとえば、ある分野の専門家が社内にいるとします。彼は、何万という情報のなかでどれが重要なかをほかのメンバーよりも分かっています。そこで、「これを見なさい」という指示をプロフィールの中に取り込みます。すると、ほかのメンバーにその情報が自動的に

配信されます。これによって、価値ある情報を効率よく検索し、配信することが可能になるのです。

バン氏の話から、クライアントだけではっきり見えなかったネットキャスターの正体が浮かび上がってくる。やはり、コンパスサーバーとネットキャスターの組み合わせはイントラネットを制するための重要な戦略であると言える。

自分のパソコンという概念からの解放

気の早い話だが、これまで見てきたネットスケープ社の戦略がクライアントとサーバーの次期バージョンではどこまでいくのが気になる。バン氏にスイートスポットの次期バージョン「Apollo」について聞いた。

バン：新しいディレクトリーサーバーによってユーザーグループの管理だけでなく、サーバー自体の設定やアクセスの制御、イントラネット内のどこにアプリケーションのコンポーネントがあるかまで管理できるようになります。さらに、ユーザーインターフェイスの設定さえもディレクトリーに格納して、どのコンピュータからもユーザー名とパスワードさえ入力すれば自分のデスクトップ環境が再

現されるといったことが可能になります。これによって、ユーザーは自分のパソコンという制限から解放されることとなります。

この話と、6月に来日した際にマーク・アンドリーセン氏が語った「コミュニケーター5.0や6.0では、ユーザーのプロファイルをサーバーに登録して、どこからでも自分の情報を引き出せるようになる」という言葉を合わせると、ネットスケープの今後の戦略がおぼろげに見えてくる。やはり、ターゲットはイントラネットだ。現在の環境と違う点は、ユーザーが自分のパソコンというハードウェアから解放されているということだ。

戦略のアピールが鍵を握る

これらの構想を現実のものにするには、やはり、現在の4.0戦争というハードルを乗り越えなければならない。ネットスケープ社には、これまで以上に分かりやすい形で自社の戦略をアピールしていくことを求めたい。ライバルであるマイクロソフト社はこの点では常に抜かりがない。このためには、ネットキャスターのウェブトップや「Netscape ONE」の実用例、日本語化された「AppFoundry」などがユーザーが実体験できるような形でアピールされるべきだ。そして、ユーザー側は両社のソリューションが1年後、2年後にどうなっているかまで見据えた選択をする必要があるのではないだろうか。



左から、米国ネットスケープコミュニケーションズ社 グループプロダクトマネージャーのデビッド・バン氏、シニアプロダクトマネージャーのJ・F・サリバン氏、アジアパシフィック担当のウォーレン・ウー氏

企業向け製品にとどまらないマリンバの事業戦略 非パソコン製品への対応も進む

Java を利用したソフト「カスタネット」などにより、プッシュ技術の分野で先駆的役割を果たしているマリンバ社。単に情報を送り出すだけではなく、ソフトウェアのバージョン管理を行うなど、ほかのプッシュ技術とは違うユニークなコンセプトを持っている。7月に来日したビジネス・ディベロップメント・ディレクターのデーヴィッド・S・ジェーコブス氏に、今後の事業展開などについて聞いた。

聞き手：山本雅史



米国マリンバ社ビジネス・ディベロップメント・ディレクターのデーヴィッド・S・ジェーコブス氏

Q：マリンバの技術は、差分アップデートのようなソフトウェアのバージョン管理に実力を発揮するとのことですが、具体的にはどのようにして管理するのでしょうか。また、1つのソフトのライブラリーを複数の企業が共有するということが可能でしょうか。

A：バージョンナンバーの認識ですが、まず128ビットのチェックサムでアプリケーション全体を示します。コンポーネントごとにもチェックサムがあるので、チェックサムのツリー構造ができます。これを最新バージョンと比較すれば、どのコンポーネントが違っているのか分かるので、必要な部分だけがトランスミッターから送られてくるというわけです。ソフトウェアの種類ごとにトランスミッターを用意する必要はありますが、共通のコンポーネントを使用している場合はそのまま使えます。

Q：それはJava ビーンズのライブラリーやプログラムの再利用というコンセプトにもつながってくるのでしょうか。

A：そのとおりです。7月に発表されたカスタネットチューナー1.1ではJava ビーンズをサポートしています。

Q：今後、金融など金銭のデータを扱うようになってくると思うのですが、暗号化などのセキュリティ面にはどのような対策をとっていますか。

A：まず、Java のセキュリティ機能に対応しています。現状ではトランスミッターとチューナーが1対1で通信しているのですが、他者が割り込むというのは考えにくいですが、

また非Javaコードに対応した製品「カスタネット・アップデート・ナウ」では、RSA やSSL の認証・暗号技術を利用してセキュリティを確保していきます。現在は米国政府による規制のため40ビットまでの暗号しか輸出できませんが、政府との調整を進めて128ビット暗号の輸出を実現したいと思っています。

Q：実際にカスタネットを使用してみると、ソフトの使い勝手がJava パーチャルマシン（Java VM）の性能に非常に左右されますが、これについてはどうお考えですか。

A：Java VM 自体の性能も日々追って向上しているので、必ず満足のいくものが得られると思います。またマリンバ社独自のプロトコルを使用した製品も作っていきますので、ユーザーが環境によって使いやすさのほうを選択できるようになります。

Q：現状ではマリンバの製品はパソコン向けが中心ですが、パソコン以外のデバイスへの対応はお考えですか。

A：もともとカスタネットチューナーというのは、組み込みシステムを意識して非常に小さく設計されています。すでに米国では、エリクソン社の携帯電話への搭載が決定しています。また現在日本のハードウェアメーカーとも交渉を進めており、近日中に組み込み用のパッケージの大規模なライセンス契約を発表できると思います。

NC や携帯電話、PDA、プリンターなどももちろんですが、将来的には家電にも組み込まれると考えています。たとえばエクササ

イズマシンで運動をするとエアコンに対して温度を下げるコマンドが送られるといったことができるのです。将来はすべての機器がインテリジェントなものになり、ネットワークにつながってくると思いますが、マリンバの技術はその第一歩になるものだと確信しています。

Q：今後マリンバ社はどの分野を中心にしてビジネスを展開するのでしょうか。

A：1つは、情報機器や家電などへのコンテンツ配信で、ポイントキャスト社などと競合する分野です。これは非常に見込みが華やかですが、収益的にはあまり大きくないと思っています。もう1つはイントラネットや航空会社の予約システムなどの、効率のよい更新が望まれる企業向けシステムです。こちらは一見地味ですが、市場は圧倒的に大きいでしょう。この両方を視野に入れて展開していきたいと思っています。

Q：競合するプッシュ技術がいくつかありますが、ライブレとなるのは何だとお考えですか。

A：現在は「プッシュ」という言葉ですべてが一括りにされていて、マリンバと他社の技術との差が正確に理解されていないように感じます。スマートな情報管理を行えるのがマリンバの強みであり、単純に情報を送り付けるだけのほかの技術とは根本的に違うのです。たとえば、ポイントキャストのシステムをマリンバの技術で作ることは容易ですが、逆は非常に難しいはずですが、現段階ではマリンバと同等の技術を持った会社はないと考えています。



Javaが切り拓く新しい分散コンピューティングの世界 非パソコン製品への組み込みに焦点を当てる

95年にサン・マイクロシステムズ社がJavaを発表してから約2年が経つ。各WWWブラウザが標準で対応するなど、Javaはインターネットの世界に確実に浸透してきた。サイエンスオフィスのディレクターとしてJavaのプロジェクトを指揮するジョン・B・ゲイジ氏に、今後のJava開発の方向性などについて聞いた。

聞き手：編集部

Q：Javaが発表された時には、ウェブオリエンテッドな新しいプログラム言語として注目を浴びました。ネットスケープがすぐに採用するなど急速に普及していったわけですが、2年前と比べて開発の方向性は変化しているのでしょうか。

A：2年前は一部のWWWブラウザやアプリケーションでしかJavaを動かせませんでした。現在は焦点が移ってきています。ネットスケープ社が将来的に全製品をJavaで作ると言っているように、ウェブ関連に限らずすべてのアプリケーションがJavaに移行するという流れが起きています。

私どもとしても、非PCデバイスへの組み込みにフォーカスを当てています。たとえば車や家電などにJavaアプリケーションが組み込まれてくるのではないのでしょうか。

Q：こうした構想を実現するための具体的なプランはありますか。

A：来年に向けての動きになりますが、Javaクラスを拡張して、スマートカードなどにJavaバーチャルマシン（VM）を組み込むこととなります。これまでとはまったく違った分散コンピューティングの時代が始まると思っています。

Q：そうすると、これまでのユーザー層か

ら、パソコン以外のユーザーにもJavaユーザーが広がるわけですね。

A：そのとおりです。これまでは億という単位のコンピュータの狭い世界だったものが、何十億というユーザーをつないでいくという非常に大規模な変革になるはず。腕時計にJavaが組み込まれていても誰も意識しないほど普及すれば、大きなビジネスチャンスになると思います。

Q：インターネット全般の将来についてはどうお考えですか。

A：TCP/IPは今後長い将来にわたって残っていくものだと思いますが、問題点もいくつかあり、ルーティングなどに強い新しいプロトコルが生まれる可能性もあります。

また、家庭にもJava VMが入っていくでしょう。さまざまな機器がVMに接続されるようになり、また新しい「プラグ&プレイ」の形が生まれるのではないかと考えています。



インターネット電話の国際間通話サービス 各社参入相次ぐ

先月号で、郵政省がインターネット電話の国際間通信を解禁したことをお伝えした。これに伴い、今まで解禁を待ちわびていた各社が一斉にサービスの開始を表明している。インターネットを意識させない「インターネット電話」に参入する企業が現在どれくらいあるかをまとめてみた。

編集部

郵政省が7月8日に国際間の「公・専・公」接続をインターネットを利用したものに限り8月より解禁すると発表したことを受けて、これまで国内のインターネット電話サービスを提供していた各社が、国際間のサービスを続々と開始している。

8月中旬現在、国際間で電話機を使ったインターネット電話サービスの提供開始を表明しているのは、編集部の調べによると9社（表参照）だ。このうち、接続サービスプロバイダーはリムネット、USA Global Link、KDD コミュニケーションズ、AT&T Jensの4社である。ただし、KDD コミュニケーションズは、9月30日までは

実験期間だ。また、リムネットの場合は、接続サービスの会員になる必要がある。プロバイダーは、他社との差別化を図るためにさまざまな付加価値を考えている。インターネット電話は、専用のサーバーを導入すれば既存のインターネットのインフラを利用してすぐにサービスを開始できるという

手軽さから、他のプロバイダーの参入も今後増えていくことが予想される。また、千代田産業やインターコネクトは、もともとコールバックサービスなどの割安の国際電話サービスを提供していた会社である。従来インターネットに関わるサービスを提供していなかったこのような企業の参入も、今後増えていくだろう。

インターネット電話の国際間通信は、これまでの国際電話サービスよりも、格段に安い。音質も十分実用になるレベルなので、今後とも各社からの参入が続くことが期待される。

	問い合わせ先	URL
リムネット株式会社	03-5489-5561	http://www.rim.or.jp/i-phone/index.html
有限会社インターコネクト	0727-27-1211	http://int-connect.com/inp/
株式会社ティー・ヴィー・エス	03-5680-2202	http://www.tvnet.co.jp/
千代田産業株式会社	03-3462-7130	http://www.telematrix.co.jp/
株式会社エム・ティー・ビー	03-3273-7833	-
株式会社ベストワン	03-5567-2131	http://www.best-one.co.jp/
USA Global Link, Inc	-	http://www.usagl.com/
株式会社KDDコミュニケーションズ	0120-03-8844	http://www.kcom.or.jp/intertel/
AT&T Jens株式会社	03-5561-5750	http://www.attjens.co.jp/products/phone/phone.html

WWW 「HTML4.0」の仕様を W3Cがドラフト公開 より使いやすい新機能

World Wide Web Consortium (W3C) は、Web ページ記述言語の最新版「HTML4.0」のワーキングドラフトを公開した。最新版はHTML3.2の機能を強化したもので、障害者のウェブ利用や、国際化への対応などを取り込んだ仕様となっている。具体的には、テーブル(表組み)の拡張により、表にキャプションを付けたり、各セルにラベルを付けたりすることができ、点字や音声による出力に、これらの情報を利用できる。また、フォーム機能の拡張でキーボードショートカットの定義などが可能となり、よりアクセスしやすいフォーム作成が可能となる。

URL <http://www.w3.mag.keio.ac.jp/>

Product アナログポートを 3つ搭載したTA ソニーが発売

ソニーは9月1日より、同社初となるターミナルアダプター(TA)「STA-128DSU」を発売する。新製品はDSUを内蔵し、S/T端子を1つ、アナログポートを3つ搭載し、PIAFSやOCNエコノミーもサポートしている。また、乾電池による停電バックアップ機能も備えている。価格は46,800円。

問い合わせ ソニー(株)
お客様相談センター
TEL 03-5448-3311



サイズは34(幅)×163(高さ)×212(奥行き)ミリ

Service ポイントキャストに 「朝日チャンネル」開設へ ニュース情報提供

朝日新聞社は、今年中に日本語サービスを始める予定の米国ポイントキャスト社と協力して、ポイントキャストネットワーク上に「朝日チャンネル」を設けることになった。インターネット上で情報を提供している「アサヒ・コム」のサービスを拡張するもので、最新のニュースや情報を朝日チャンネルを通じて時々刻々と提供することになる。ポイントキャストネットワークは、最新のニュースと情報を利用者のコンピューター画面に無料で放送するニュースネットワークで、日本語版サービスはポイントキャスト社とトランス・コスモスが共同で準備を進めている。なお、朝日新聞社では今後、ネットスケープ社の「Netcaster」などのサービスにも対応していく予定。

Software 映像や音声も送れる 電子メールソフト 「ビデオメール」発売

マップジャパンは、インターネットで映像や音声を送ることができる電子メールソフト「クオリティモーション」ビデオメール」を発売した。クオリティモーションはKDDが開発した映像圧縮電送技術で、1分間の映像と音声を約300Kバイトまで圧縮できる。受信側は、無料で配布されている専用ビューアーがあれば一般のメールソフトで受信できる。価格は14,800円。

URL <http://www.mapjapan.co.jp/>
問い合わせ マップジャパン(株)
TEL 03-3363-5570



ビューアーソフトはホームページ上で入手できる

Commerce 「SET 1.0」に対応した バーチャルモール実験 10月からスタート

東芝とビザ・インターナショナルが幹事会社を務めるスマート・コマース・ジャパン(SCJ)は、ICカードを利用してインターネット上で商取引を行うためのプロトコル「SET 1.0」に対応したバーチャルモール実験を、10月より順次開始する。この実験では「SET 1.0」をICカードでも利用できるようにした「CCEC(チップ・カード・エレクトロニック・コマース)」を採用し、日本独自の支払いシステムにも対応している。今回の実験は一般から募集するモニターを対象に、阪急電鉄が運営するショッピングモール「Click & Shop」で展開される。また、12月には電子マネー「ビザ・キャッシュ」をインターネット上で使用する実験も開始する。

URL <http://www.scj.or.jp/>
URL <http://www.ec.scj.co.jp/> (Click&Shop)

Service NTT、NTTアドなど3社が ウェブマガジンの共同実験 「HotWired Japan」

NTT、NTTアド、NTTラーニングシステムの3社は、ウェブマガジン「HotWired Japan」の共同実験を今秋から開始する。「HotWired」を発行する米国Wired Digital社の協力を得て実施するもので、HotWiredの日本語翻訳記事と日本発のオリジナル記事を合わせてメニュー構成し、コンテンツ制作や、マーケティング、システム技術の検証などを行う。

URL <http://www.hotwired.co.jp/>



ニュースやギャラリーなどのコンテンツが豊富

Product カセットサイズのデジタルカメラを三菱電機が発売

三菱電機と亜土電子工業は共同で、内蔵メモリー2Mバイトで外部記録メディアにコンパクトフラッシュを採用したデジタルカメラ「DJ-1」を開発し、発売を開始した。サイズは111.2(幅)×64.6(高さ)×19.8(奥行き)ミリで、ストロボと液晶モニターは搭載していない。CCDは25万画素で、出力画素数は320×240ドットまたは504×378ドット。価格はオープンブライス。問い合わせ (株)三菱電機ライフネットワーク(本社) TEL 03-3448-6946



シルバーボディの「DJ-1」、同スペックでチタンブルーの「DJ-1000」もある

Software マイクロソフトがホームページ作成ソフト「FrontPage98」を公開

マイクロソフトはホームページ作成ソフト「FrontPage98」の版を日本時間の8月10日、同社のホームページ上に公開した。「FrontPage98」は簡単な操作でホームページが作成できるアプリケーションで、ダイナミックHTMLをサポートし、チャンネル生成などの機能を搭載。なお、本誌付録CD-ROMに試用版がある。収録先は、CD-ROM A Frontフォルダー。

URL <http://www.microsoft.com/frontpage/download/japanese.htm>



ダイナミックHTMLやCDFファイルの作成もできる

Commerce ベリサインがE*TRADEと提携株式投資が実現へ

米国ベリサイン社は、オンライン株式投資サービスの米国E*TRADE社と提携し、E*TRADEのWebサイトで利用でき、インターネットのユニバーサルIDカードとして利用できるE*TRADE専用のデジタルIDを発行すると発表した。現在、E*TRADEはSSL(Secure Sockets Layer)を利用して顧客のセキュリティやプライバシーを保護しているが、デジタルIDを使うことで、顧客は通信に電子署名をして暗号化することができ、身元証明を与えて商取引を確認することができる。また、ベリサインの消費者保護プログラムにより、盗難、なりすましなど、ベリサインのデジタルIDの利用から発生した経済的損失も保護される。

URL <http://www.verisign.co.jp/>

URL <http://www.etrade.com/>
(E*TRADE社のホームページ)

Service あさひ銀行がメール情報提供サービスを開始

あさひ銀行は、電子メールによる情報提供サービス「あさひジャスト・イン・タイム」を開始した。利用者が希望する情報を電子メールで配信するサービスで、提供するの当面「預金金利情報」「住宅金融情報」「市況情報」「あさひビジネスプラザダイジェスト」の4メニュー。料金は無料で、同行と取引のない人でも利用できる。

URL <http://www.asahibank.co.jp/>



為替、金利、債券、株式などの情報が送られる

Product 音楽コンテンツをMDへネットワークMDコンボシャープから発売

シャープは、インターネットから配信される音楽やデジタル衛星音楽放送をMDにデジタル編集できるMDコンボ「MD-X8PC」を発売した。付属のPCMCIAカードケーブルでコンボとノートパソコンなどを接続して、パソコンの音声データをオーディオのデジタル信号に変換し、パソコンのキーボードで文字入力などのMD編集ができる。価格は112,000円で、PCMCIAカードが別売の「MD-X8」は88,000円。

問い合わせ シャープ(株)お客様買い物相談専用フリーダイヤルTEL 0120-078178



ノートパソコンのキーボードからMDの編集ができる

Event 「第2回朝日デジタル広告賞」朝日新聞社が開催
グランプリは賞金100万円

朝日新聞社は、インターネット上の広告を対象とした「第2回朝日デジタル広告賞」を開催する。インターネット広告の新しい技術や手法を審査するもので、審査は相磯秀夫・慶応義塾大学大学院教授を委員長に行われる。課題は「アサヒ・コム」上で発表されており、応募期間は10月15日まで。グランプリ1点には賞状、賞杯と賞金100万円が贈られる。

URL <http://www.asahi.com/ad/clients/daward97/index.html>



本誌でおなじみの川口雅代さん特別審査委員を務める

Service 「CAZ ネット」が OL 向け情報を 電子メールで配信

扶桑社は、雑誌「CAZ」と連携したOL向け情報配信サービス「CAZ ネット」の運営を開始した。ホームページでCAZ最新号の特集内容やダイジェストニュースなどを提供するほか、会員登録したメンバーへは毎週火曜日に、天気予報や占い、ドラマ情報、レストラン情報、芸能情報などを電子メールで配信する。入会金と月会費は当面無料。

URL <http://www.caz.co.jp/>



占いやグルメ情報などの女性には嬉しい情報が満載

WWW ホームページの フィルタリング 機能を構築開始

電子ネットワーク協議会は、インターネット上の“見たくない”あるいは“見せたくない”情報を排除できる「フィルタリング機能」の普及に向けて、各ホームページを評価してラベル付けしたデータベースを構築し、9月からこのデータベースに基づく運用を開始する。また、アクセス機能を搭載したフィルタリングソフトも、ウィンドウズ95版を9月から、マッキントッシュ版を10月から配布する。評価・ラベル付けに際しては、国際的に広く使われているRSACi（娯楽ソフト諮問会議による基準）をベースとしており、暴力、ヌード、セックス、誹謗中傷などの項目でフィルタリングすることができる。

URL <http://www.nmda.or.jp/enc/rating/>

Company NCIとナビオが合併 「Enhanced TV」の 新製品は9月にも出荷

米国ネットワークコンピュータ社（NCI）と米国ナビオ・コミュニケーションズ社は8月13日、正式に合併の完了を発表した。存続会社はNCIで、今後は一般消費者向け家庭用次世代テレビの開発にも注力する。「Enhanced TV」と呼ばれるこの家庭用テレビの技術は、放送とWebコンテンツを組み合わせたもので、ニュース、スポーツ、株価、番組表、電子メール、チャットなどのパーソナライズされた情報を、テレビ番組を視聴しながら利用できるものだ。米国ではすでに複数の企業が、この「Enhanced TV」のビジョンを支持することを表明しており、9月には米国トムソン社が「Enhanced TV」の最初の製品を出荷するという。

URL <http://www.nc.com/>

WWW 米エキサイト社が 日本語版検索 サービス開始

米国エキサイト社は、日本のインターネット利用者向けに日本語によるWWW検索サービスを開始した。漢字、かな、ローマ字の3通りで検索でき、検索対象サイトも国内サイトのみと全世界サイト検索の2通りから選択できる。また、同社の独自技術であるコンセプトサーチや、最適検索方法に関する説明などの情報も利用可能。利用は無料。

URL <http://jp.excite.com/>



メジャーな検索サービスが日本語サービスを開始

Software インターネット 翻訳ソフトを 東芝が発売

東芝は、インターネット翻訳ソフトの新製品「ASTRANSAC for Internet V2.0」を発売した。業界最多の約23万語の辞書とユーザー辞書を標準装備したほか、日本語ページを英語に翻訳できる日英翻訳機能、指定したWebページを自動的にダウンロードして翻訳するオートパイロット機能などを搭載しているのが特徴。価格は英日版が12,800円、英日/日英版が16,800円。

問い合わせ ㈱東芝
コンピュータ・ネット
ワークプロダクト
事業部 TEL 03-
3457-2725



オートパイロット機能を搭載した「ASTRANSAC for Internet V2.0」

Service アメリカ情報産業の トレンドニュースを インプレスが有料配信

インプレスは、米国情報産業トレンドニュース「TechWire Japan メールサービス」の有料購読の受け付けを開始した。米国CMP社が提供するニュースサービスの日本語版で、新製品などの業界動向や、ファイナンス面からの業界分析などの記事を日刊で約10本、火曜日から土曜日まで毎日1回夕方までに配信する。購読料金は、6か月3,000円、14か月で6,000円。

URL <http://www.ips.co.jp/>



申し込みはホームページ上でも受け付ける

Event イベントカレンダー(1997年9月~12月)

カレンダーの日程はあくまでも予定です。お出
かけの際は、問い合わせ先へ確かめください。

国内

開始日	終了日	名称	概要	開催場所	主催・問い合わせ先
9月12日	9月14日	IntoAnimation 97 URL http://jaa.saino.ne.jp/	一線で活躍する日本のアニメーション作家の作品を一堂に集めた上映会。初期の貴重なアニメーションや手塚治虫特集、制作者のトークショーもあり。ウェブクリエーターも必見。	東京都写真美術館 (恵比寿カードンプレイス内) 東京都目黒区三田1-13-3	主 日本アニメーション協会 関 タクソボックス内イントゥ・アニメーション実行委員会 Tel. 03-3499-5645 Fax. 03-3400-2159 ☎ jaa@tomato.saino.ne.jp
9月13日	9月15日	マルチメディアフェア'97 in ちば 安心と活力のある生活の創造	「私たちの生活をいかに支えているのか?」といった、マルチメディアの理解を深めるためのイベント。	日本コンベンションセンター(幕張メッセ) 千葉県千葉市美浜区中瀬2-1	主 マルチメディアフェア'97 in ちば実行委員 関 マルチメディアフェア'97 in ちば実行委員会運営事務局 Tel. 043-223-6150 Fax. 043-223-6200
9月24日	9月27日	WORLD PC EXPO 97 URL http://wpc97.nikkeibp.co.jp/	パソコン本体や周辺機器、ソフトウェアに関する総合展示会。	日本コンベンションセンター(幕張メッセ) 千葉県千葉市美浜区中瀬2-1	主 日経BP社 関 日経BP社WORLD PC EXPO事務局 Tel. 03-5210-8289
10月6日	10月10日	エレクトロニクスショー'97 URL http://www.jesa.or.jp/jes/	オーディオ、ビジュアル関連、マルチメディア関連の機器や部品、デバイスなどの展示会。	日本コンベンションセンター(幕張メッセ) 千葉県千葉市美浜区中瀬2-1	主 社団法人日本電子機械工業会(EIAJ) 関 日本エレクトロニクスショー協会(JESA) Tel. 03-5402-7601 Fax. 03-5402-7605 ☎ info@jesa.or.jp
10月17日	10月19日	女性のための ネットワーキングフェア'97 URL http://www.nikkei.co.jp/events/nwf/	パソコンやネットワークを活用した新しいライフスタイルの創造を提案するための展示会。	パシフィコ横浜 神奈川県横浜市西区みなとみらい11-1-1	主 横浜市、日本経済新聞社 関 「女性のためのネットワーキング・フェア」事務局 ☎ nwf@nikkei.co.jp
10月28日	10月31日	プレゼンテーションツール トレードフェア'97 URL http://www.nikkan.co.jp/eve/presen97.html	プレゼンテーションやDTP、デジタルコンテンツなどに関する展示会。	東京ビッグサイト(東京国際展示場) 東京都江東区有明3-21-1	主 日刊工業新聞社 関 日刊工業新聞社事務局イベント部 ☎ j910387@tky.nikkan.co.jp
11月4日	11月7日	COM JAPAN 1997 URL http://www.jeida.or.jp/event/newcom.html	情報と通信に関する総合展示会。	東京ビッグサイト(東京国際展示場) 東京都江東区有明3-21-1	主 通信機械工業会、社団法人日本電子工業振興協会、 社団法人日本パーソナルコンピュータソフトウェア協会 関 COM JAPAN 幹事事務局 Tel. 03-5405-7356 Fax. 03-3433-2003
11月12日	11月14日	MST'97 (マイコンシステム&ツールフェア) URL http://www.jasa.or.jp/mst97.html	「エンベデッドテクノロジ」を取り上げて開催される唯一のイベント。	東京ビッグサイト(東京国際展示場) 東京都江東区有明3-21-1	主・関 社団法人日本システムハウス協会 Tel. 03-3668-3151 Fax. 03-3668-2197
11月12日	11月14日	国際放送機器展'97 URL http://www.jesa.or.jp/BEE/	音と映像のプロフェッショナル展。放送関連、CATV関連、プロオーディオ機器などの機材が多数出展される。	日本コンベンションセンター(幕張メッセ) 千葉県千葉市美浜区中瀬2-1	主 社団法人日本電子機械工業会 関 日本エレクトロニクスショー協会(JESA) Tel. 03-5402-7601 Fax. 03-5402-7605
11月12日	11月14日	Windows NT INTRANET Solutions Tokyo 97 URL http://www.sbfors.com.jp/wntis.htm	ウィンドウズNTやイントラネット関連のハードウェアやソフトウェア、周辺機器などの展示会とコンファレンス。	日本コンベンションセンター(幕張メッセ) 千葉県千葉市美浜区中瀬2-1	主・関 ソフトバンクフォーラム株式会社 Tel. 03-5642-8433 Fax. 03-5641-4617
11月26日	11月28日	Digitalmedia World - NICOGRAPH '97 / MULTIMEDIA '97 & DIGITAL CONTENTS FESTIVAL '97 URL http://www.nikkei.co.jp/events/digital-mw/	3次元CG制作やマルチメディアコンテンツ制作に関するツール、制作環境を構築する技術などの展示会。	日本コンベンションセンター(幕張メッセ) 千葉県千葉市美浜区中瀬2-1	主 財団法人マルチメディアコンテンツ振興協会、日本 経済新聞社、マルチメディア・タイトル制作者連盟 関 日本経済新聞社事務局総合事業部 Tel. 03-5255-2847 Fax. 03-5255-2860
12月3日	12月5日	INTERNET COMMERCE EXPO / TOKYO URL http://www.idgexpo.com/	「企業情報システム」をテーマとしたイントラネット、エレクトロニクスコマース、セキュリティなどの展示会とコンファレンス。	パシフィコ横浜 神奈川県横浜市西区みなとみらい11-1-1	主 IDGワールドエキスポジャパン 関 ICE統括事務局 Tel. 03-5276-3751 Fax. 03-5276-3752
12月3日	12月5日	Web T3/Tokyo '97 URL http://www.idgexpo.com/	Webマスターのための最新テクノロジーやツール、ホームページ構築テクニックを紹介する展示会とコンファレンス。	パシフィコ横浜 神奈川県横浜市西区みなとみらい11-1-1	主 IDGワールドエキスポジャパン 関 Web T3統括事務局 Tel. 03-5276-3751 Fax. 03-5276-3752
12月9日	12月12日	SEYBOLD SEMINARS TOKYO 97 URL http://www.sbfors.com.jp/seybold/	「真デジタル パブリッシング宣言」をテーマに、最新テクノロジーやツールを集めたコンファレンスと展示会。M&Nコンファレンスと同時に開催。	日本コンベンションセンター(幕張メッセ) 千葉県千葉市美浜区中瀬2-1	主・関 ソフトバンクフォーラム株式会社 Tel. 03-5642-8313 Fax. 03-5641-4617

海外

開始日	終了日	名称	概要	開催場所	主催・問い合わせ先
9月8日	9月11日	Internet Commerce Expo URL http://www.idg.com/ice/icela97/	EC関連の総合展示会。イントラネットやセキュリティ、ウェブマーケティングなどの話題多数。	Los Angeles Convention Center Los Angeles, CA, USA	関 IDGワールドエキスポジャパン Tel. 03-5276-3751 Fax. 03-5276-3752
9月29日	10月3日	Seybold San Francisco 97 URL http://www.seyboldseminars.com/	コンピュータやインターネットが、CGや印刷、出版、広告などにもたらす変化と新たな可能性に焦点をあてたコンファレンスと展示会。コンファレンスは29日から、展示会は1日から。	Moscone Center San Francisco, CA, USA	関 ソフトバンクフォーラム株式会社 Tel. 03-5642-8313 Fax. 03-5641-4617
11月17日	11月21日	COMDEX/Fall '97 URL http://www.comdex.com/	世界最大のコンピュータ関連の総合展示会。	Las Vegas Convention Center Las Vegas, NV, USA	関 ソフトバンクフォーラム株式会社 Tel. 03-5642-8313 Fax. 03-5641-4617
12月8日	12月12日	Fall Internet World '97 URL http://events.internet.com/fall97/	インターネット関連の総合展示会。	Jacob K. Javits Convention Center New York, NY, USA	関 Mecklermedia Corporation Tel. +1-203-226-6967 Fax. +1-203-454-5840 ☎ info@mecklermedia.com



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp